

社 報



中間支保工を入れ忘れ・・・、あわや！

ポプラ合板・失敗

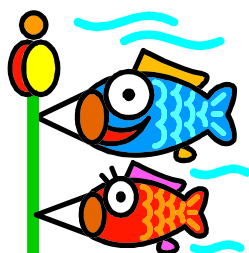
昨年より、輸入をしてきました中国ポプラ合板ですが、反りが大きく、ラワン合板の代替品としては適していませんでした。

価格が安いことから、原価低減に貢献できればと、挑戦して来ましたが、結論としては失敗してしまいました。残念！

釘の輸入は成功！

失敗ばかりではありません。当社が中心となって、中国から釘の共同購入を進めてきました。今年の1月に丸釘・4月にはローリング釘を輸入しました。

どちらも、品質は遜色なく、価格は従来よりもかなりお安く輸入することができました。



中間支保工を入れ忘れて、スラブが抜け落ちるという事故が発生しました。幸いにも人身災害はありませんでしたが、事故の内容としては非常に悪い内容でありました。

次に事故の原因を分析します。

計画無視

支保工の計画図はありました。これは床版メーカーが作成したもので、当社職長もその存在は知っていましたが、下階から何階も支保工の設置を行って来ており、当初は計画図を見ていたが、慣れるに従い、計画図を見ずとも支保工が設置できるほど熟練してきたので、計画図を見ずに支保工の設置を行ってしまいました。

感違い

通常の床版はスパンの短辺方向に架け渡すことが多いのは、どの現場でも通例で、この現場でもほとんどのスパンは短辺方向に床版が架設されていました。が、約2.5㎡の抜け落ちたスパンだけが、長辺方向に架設されていて、下階から施工を重ねた習慣性によって、当該スパンも短辺方向(約3m)に架設されると勘違いして、中間支保工を設置しなかったものと

思われます。

確認漏れ

床版を設置する時には、中間支保工は目視により確認することができません。当社の作業手順書では、中間支保工の後入れはダメとはっきり記載されていますが、現場ではまれに工程に追われて、中間支保工の設置が床版の後になることもあり、床版設置時に中間支保工が抜けていることに気が付きませんでした。

確認漏れ

当該スパンは二重スラブ部分で、抜け落ちたスラブの下はビットになっており、壁開口がなく真っ暗な状態であり、コンクリート打設前の点検でも照明を持ってチェックしたものの、梁間スパンが小さいために、中間支保工の設置モレに気づけなかったと思われれます。

以上、事故の要因です。

対策としては、

- ・中間支保工は計画図により設置
- ・経験や勘に頼る設置はしない
- ・床版敷設時に中間支保工を確認
- ・確認できない時は床版敷設しない
- ・コンクリート前に再度点検確認する

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

交通事故

4月10日(金) 18:30頃

当社従業員 吉岡さん運転の日産「キャラバン」が、交差点を左折しようとして、ハンドルを切ったところ、歩行者保護ポールに車体を接触し破損した。自損事故につき、対人・対物の損傷はありません。

しばらく交通事故はなかったのですが、いつも安全運転をお願いします。

不安全行動

4月24日(金) 9:00頃

当社従業員 何さん(中国実習生)が、住不竜華タワーの現場で安全帯を使用せずに作業を行い、レッドカードペナルティで一発退場となりました。安全使用場所ではお互いに声を掛け合い、安全帯使用を皆がチェックしあって、不安全行動を防止しましょう。災害は必ず防げる信念で！

2009年 安全成績

現場災害 H21.1.1-H21.4.30	
休業災害	----- 0
不休災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 0
交通災害 H21.1.1-H21.4.30	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 1
合計	----- 1